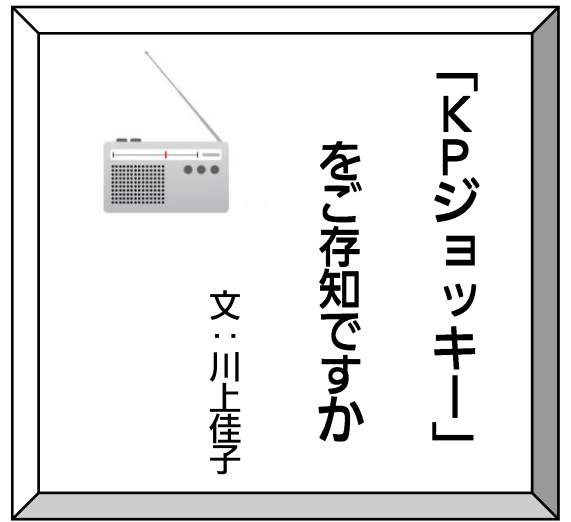


文芸北見 本誌

このコーナーは北見市の文化誌「文芸北見」において、川上さんがKPジョッキーというラジオ番組の長らくのファンであることから誌面に取り上げられた事についての文章を頂きましたので、その内容の一部をご紹介します。



をぞく存知ですか

文：川上佳子

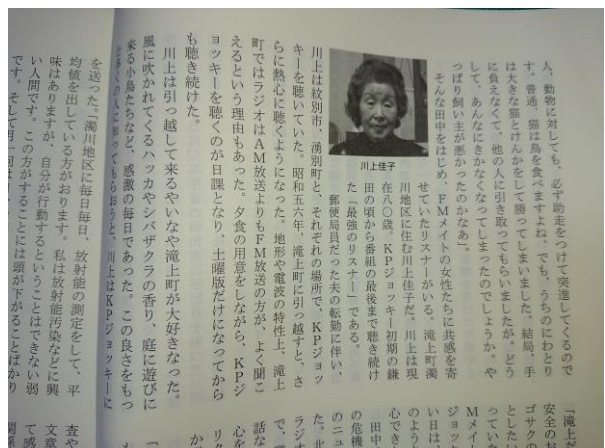
連続テレビ小説の「ひよっこ」が終了すると、リチャードクレイダーマンの「恋のピンポン」の軽快な音楽と共に朝の仕事が始まります。この曲はNHK北見放送局が夕方の六時から放送していた、FM放送の「KPジョッキー」のテーマ曲なんです。昭和四十六年から平成二年三月の終了まで、高校生・中年の方に好評だった音楽番組でした。

その頃のNHK北見放送局には、大勢の男性アナウンサーが勤務していましたので、「KPジョッキー」のパーソナリティも男性アナウンサーと女性のFMメイトの二人が担当していました。現在大相撲を実況している藤井康生アナウンサーも「KPジョッキー」を担当していました。

昭和五十六年に滝上町民になった私は、自然豊かなこの地が大好きになりました。この事を網走管内の皆さんにも知らせたくなって「KPジョッキー」の番組にリクエスト曲と共に滝上だよりとして投稿し始めたのです。「水が美しいです。」「エゾエンゴサクが見事です。」「野鳥が飛来

しています。」「庭にしめじが出てきました」とハガキに番号を付けて送り続けました。「滝上だより」を聴いたよと言われると調子に乗って送り続けたハガキは九十九通になりました。

一度こんな事がありました。「紋別が吹雪になったため、紋別高校に通学していた長女が早く帰宅しましたが、滝上は穏やかでしたのに海辺と山奥とはこんなにも気候が違うのですね」と投稿しましたら、翌日、登校した長女の側に男子生徒が数人集まって来て、「お前の母さん川上よしこか？」と「KPジョッキー」を聴いている事を娘に言ったそうです。NHK北見放送局が縮小されて「KPジョッキー」もFMメイト1人が担当するようになりましたが、私は優しい女性が読み上げてくれる滝上だよりの記録は一切ありませんが、「KPジョッキー」のリスナーだったのよと言ってもだれも信じてくれそうにありませんが、今年七月に北見市の文芸北見発刊実行委員会発行の第四十七号に、現在NHK釧路放送局長の坂野様より「KPジョッキーとその時代」



↑文芸北見の川上さんの記事写真

と題して、私奴が紹介されたのです。

滝上が大好きです。この地に住んで三十六年、文芸北見のおかげで私の生き様が証明されたと自負しています。「恋のピンポン」は今日も流れています。

